

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyar@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 鈴木 豊
幹事 小川 耕示
会報委員長 丹羽 克誌

2013 ~ 2014年度 国際ロータリー ロンD.バートン 会長テーマ

Engage Rotary Change Lives ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2814回例会プログラム

[当年度 = 6回目; 当月 = 3週目]

2013年(平成25年)8月19日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱
……それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 新入会員挨拶……内藤 昇 会員
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(8/26) ……
クラブフォーラム(出席委員会)
通年皆出席者および前年度皆出席者表彰
クラブフォーラム(会員増強委員会)
講師 クラブ会員増強委員会
委員長 久米 博明 会員
(9/2) ……

卓話

- 講師 刈谷市立亀城小学校
校長 山田 基 様
(紹介者 酒部 正博 会員)

- 13:00 14. 本日のプログラム
卓話 「侵入盗被害について考える」
講師 愛知県刈谷警察署
署長 三好 正則 様
(紹介者 天野 櫻子 会員)

15. 謝辞
16. 点鐘……〈会長〉
17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

出席

会員総数 98名 出席免除 28名
出席義務者+免除者の内例会出席者 86名
欠席 4名 出席率 95.35%
前々回(7/29)の修正出席率 100%

幹事報告

- 1) 本日、内藤昇会員の入会により、会員数は98名となりました。内藤会員には親睦活動委員会への配属をお願いします。
2) メールボックスに会員証を入れさせて頂きました。会費の入金期限は、8月20日となっておりますのでよろしくお願いします。
3) 吉岡会員がベックスヒルロータリークラブへ、バナー交換をされ、現地新聞に掲載されました。

会長あいさつ

釉薬に流れる井ヶ谷窯哀歌

鈴木 豊



平安時代、井ヶ谷は全国有数の窯業地でした。その発祥は、5世紀ころ発達した猿投窯です。猿投窯は鎌倉時代まで続けられ、その窯跡は1800基に及んでいます。その最盛期である8世紀後半、猿投窯の拡大に伴い井ヶ谷にも数多くの窯が築かれました。井ヶ谷窯の誕生です。

猿投窯が高級品の水差しや碗などを生産したのに対し、交通の便に恵まれた井ヶ谷窯は穀物の貯蔵用や水瓶など大型日用品が主に作られました。陶器を焼くことは、当

時の人々にとって過酷な労働であったことは容易に想像できます。灰釉陶器を焼く窯の温度は1,150度に及びました。窯に火を入れると、数日は休むことさえ許されません。井ヶ谷の人々は黙々とロクロを回し、窯に火を入れたのでしょ。10世紀に入ると、灰釉陶器は一般庶民からの需要が高まり、生産量が急増。猿投、井ヶ谷の生産者は生産方法を簡略化し生産効率を高めました。

しかし、その結果として品質の低下を招くことになり、自らの手で灰釉陶器生産の火を消すことになりました。猿投窯は釉薬を使わない陶器に切り替え、瀬戸・常滑・渥美・東濃へと広がり、今日の基盤ができあがりました。

生き残るものと、生き残れないもの。その相違点はどこにあったのでしょうか。その答えを求めて井ヶ谷窯の跡地を歩いてみました。大池や洲原池、そして東境の岩が池へと歩を進めると、登り窯を作るに絶好な傾斜地が広がっています。そして「当時の東海道は、豊明市掛掛から境川を渡り、豊田市駒場を経て知立の八橋へ向かっていた。井ヶ谷窯は、この古代の東海道に接して築かれた」(市史より要約)という立地の良さが、生き残るための判断を鈍らせたのかも知れません。

誰かが、畑で草を燃やしている。その煙が緑の丘陵地を流れ、青い空にとけ込んでいった。一瞬、その煙が私には1200年前の井ヶ谷窯の煙のように思えました。

卓 話

「住宅対象侵入盗から家庭を守るために」 刈谷警察署長 三好 正則 様



○ はじめに

県警は、「安心して暮らせる安全な愛知の確立」を目指して様々な取組みを図っていますが、今回は、県下で増加傾向にある住宅対象侵入盗(空き巣、忍込み、居空き)についてお話したいと思います。

○ 市内の犯罪情勢について

7月末現在、市内の犯罪被害の認知件数は1,059件(前年比-256件)と4年連続して減少傾向にあります。平成15年が約4,600件であったことを踏まえると、地域、行政、企業や各種団体の皆様方との協働した取組みが成果を挙げてきていると感じています。しかし、着実に被害は減少してはいますが、住宅を対象とする侵入盗被害は95件、自動車盗被害は57件を認知するなどまだまだ安心できる状況ではありません。特に、家人が犯人と鉢合わせになった場合、強盗事件等に発展する可能性がある住宅対象侵入盗被害では、窓等の無締り箇所から侵入される被害が約20%あるなど、ちょっとした油断に付け込まれて被害に遭うケースがまだまだ散見されてます。

※本年の数値は暫定数

○ 被害に遭わないために

犯罪被害は決して他人事ではありません。人が生活

(2)

するうえで絶対に守りたいのは、私生活エリアだと思います。そこへ土足で侵入され、時に寝ているところを物色されることは絶対に避けたいと思います。犯人は、まずは窓の無締りを探し、無ければ窓ガラスを割って侵入してきます。カギを確実にかけることは基本中の基本、しかしこれだけでは不十分です。「防犯の4原則」である、時間(補助錠や防犯フィルムで侵入までに時間をかけさせる。)、光(センサーライト等で家の周りを明るくする。)、音(警報機や防犯砂利で侵入を知らせる。)、地域(ご近所との連携による不審者への声かけや不審者を見かけた際は110番通報する。))といったプラスワンの対策を組み合わせることが有効です。

- 署としても犯人逮捕の捜査や被害の続発防止に向けた警戒活動に全力で取り組んでいますが、何よりも大切なのは被害に遭わないことです。会員の皆様やご家族は言うに及ばず、大切な社員の方が被害に遭うことのないように、身近なところで侵入盗被害が多発していることを意識し、直ぐにでも取れる対策を家庭で考え、そして今日から実践して貰いたいと思います。

新入会員紹介

氏名 内藤 昇ないとう のぼる
生年月日 昭和35年3月14日
推薦者 加藤 英二 会員
職業分類 日本料理店
事業所名 株式会社だるま
役職名 代表取締役社長
所属委員会 親睦活動委員会



内藤 昇 会員